IZUOSHIMA GEOPARK

伊豆大島ジオパークMAP

地球の息吹を満喫しよう！



花のリレーを楽しもう♪

～東海上の花彩島～

繰り返す噴火による荒地や島ならではの強い潮風にも負けないたくましい植物が、春夏秋冬、島を彩ります。



〈発行〉
伊豆大島ジオパーク推進委員会
事務局／〒100-0101 東京都大島町元町字神田屋敷617
伊豆大島ミュージアム ジオノス内
TEL：04992-7-5301
E-Mail：c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp
2026年9月版

Ⓐ ジオステーションおかた港

岡田港に着いたらまず立ち寄ろう！

船客待合所2階で伊豆大島ジオパークの基本情報＋最新情報が入手できます。岡田港到着の際はこれから巡る場所の確認に、お帰りの際は次回ご来島の計画づくりにご活用ください！
【開館】当日の出帆港が岡田港の日の最終便の出航まで（船の運航時刻により変動あり）



① 赤禿（あかっぱげ）

海に突き出た赤い丘

マグマが上空に勢いよく噴き上がり、火口の周りに急速に降り積もる噴火が起こった跡です。マグマの粒がまだ高温のうちに空気に触れたため、酸化して赤さび色になりました。このとのときできた小さな火山の形はやがて波に削られていき、現在は海を望む絶好の展望所となっています。



② 長根（ながね）

天然の桟橋？

1338年、山腹で起きた割れ目噴火の溶岩流が沢を下り、元町地区の低い土地を埋め立てながら海まで流れ込みました。当時は今より100メートルほど先まで陸地が続いていましたが、周囲のもろい地面が波に削られ海岸線が後退し、硬い溶岩だけが岬として残りました。



③ 元町浜の湯 ほか

火山でほっこり♪

1986年の噴火によって、元町地区の地下水がマグマの熱で温められて温泉に変わりました。
浜の湯では、伊豆半島に沈む夕日が空と海を茜色に染める光景を、露天風呂に入りながら眺めることができます。地下水を利用していた中学校の屋外プールも温水になりました！



Ⓑ 伊豆大島ミュージアム ジオノス

フシギの答え合わせ！

火山噴火が生んだ伊豆大島。そこに息づく生きものたち、受け継がれた暮らしや文化。それらが紡ぐ物語やつながりを楽しく学べます！
【開館】10:00 ～ 16:30
※最終入館16:00※東京発大型船が就航予定の翌日は9:00開館
【休館】水曜日（祝日の場合は翌平日）
【料金（一般）】大人820円、子ども410円



詳しくはジオノス公式ホームページをご覧ください。▶
https://izuoshima-geonous.org

④ 地層大切断面

巨大バウムクーヘン



約1万8000年間に繰り返し起こった大噴火、約100回分の噴出物が巨大な縞模様をつくりあげました！ この地層は1953年、道路建設工事のため山を削ったときに発見されたものです。もともと起伏のある地形に沿って噴出物が降り積もったため、大きく波打つ地層ができました。島の噴火の歴史を物語る、まさに島の履歴書です。

⑤ 砂の浜（さのはま）

ふかふかのブラックビーチ

沢を流れ下った火山灰や火山砂、砕けて細かくなった溶岩が集まってできた黒い砂浜です。黒い色が熱を吸収するため、夏に裸足で歩くと火傷しそうな熱さです。この浜には毎年ウミガメが産卵に上がってきますが、地中の温度が高いため、卵がかえる日数も南の浜より早いそうです。



伊豆大島ジオパーク外周エリアマップ

IZUOSHIMA Coastline Area MAP



凡例

- トイレ Toilet
- 神社 Shrine
- ガソリンスタンド Gas Station
- 駐車場 Parking
- 温泉（日帰り入浴施設） Hot Spring
- 車両進入禁止 No Entry for Vehicles
- 国際優秀つばき園 International Camellia Garden of Excellence

国立公園特別保護地区

伊豆大島は「富士箱根伊豆国立公園」に指定されており、自然公園法で守られています。豊かな自然や希少な資源を大切にしながらお楽しみください。

※国立公園・特別保護地区内では、以下の行為が自然公園法で禁止されています

車両の進入　岩石・動植物などの採取・持ち出し

⑥ イマサキ

スリル満点の崖

マグマと海水が触れて起きた爆発的な噴火で丘ができ、やがて丘のふもとが波で削られ、切り立った崖となりました。崖には大小さまざまな石がたくさん挟まっていることから、激しい噴火だったことがわかります。海に囲まれた火山島では、火山と水のせめぎ合いが常に進行中です。



⑦ トウシキのボムサッグ

座布団を敷いた石

火山灰が降り積もった地面に、激しい噴火で飛んできた石が衝突してめり込んだ跡が残っています。その凹みの形状から、これらの噴石は、波浮港の火口ができた噴火のときに、500メートルほど離れたこの海岸まで飛んできたものと考えられています（※一部、崩落が進んでいます）。



⑧ 波浮港（はぶみなと）

火口が港に大変身！

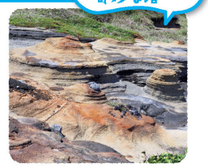


9世紀初めの噴火で開いた火口に水がたまり、火口湖ができました。江戸時代、元禄地震の大津波で火口の縁が崩れて海とつながり、その後、残っていた大岩を人々が砕いて取り除き、1800年に「波浮港」として開港しました。切り立つ崖に周囲を守られているため、風待ち港としてたくさんの漁船が寄港し、昭和の半ば頃までおおいに栄えました。また、穏やかで美しいこの港町に保養や執筆で多くの歌人や作家たちが訪れ、大島をテーマにした作品を残しました。

⑨ カキハラ磯

噴石を載せた奇妙な塔

マグマと海水が接触した激しい噴火によって飛んできた噴石がふしぎな光景をつくりました。周辺の地面には“火山豆石”がたくさん見つかります。水分を多く含んだ噴煙の中で小さな岩片が核となり、周りに細かい火山灰がくっついて丸いカタマリになったものです。



⑩ 筆島（ふでしま）

火山は残った

伊豆大島の誕生前、数十万年前までここで活動していた古い火山島の名残りです。火山活動を終えた島はやがて波に削られ、マグマの通り道で固まった硬い岩が海に取り残されました。
筆島の向かいの崖に見える灰色のスジは、マグマが大地を割り入った跡（岩脈）です。



⑪ 桜株（さくらっかぶ）

オオシマザクラは800歳！？

溶岩はときどき、地面の高まりに生えている植物たちを残して、その周りを流れていきます。約500年前、そのようにして溶岩原に残ったサクラの巨木は、かつて航海の目印でした。800歳を超えた今も森の中にたたずみ、毎年春にはみごとな花を咲かせています。



⑫ 大島公園 動物園

動物園の岩山も溶岩

江戸時代の大噴火で三原山から海まで流れた溶岩地帯につくられた、自然地形を活かした動物園です。冷えかかった溶岩が、後から流れてきた溶岩に押されて盛り上がってできた岩山は、もともと岩の多い山地で暮らしていたバーバリーシープたちの素敵な住処となっています。

